

3. 寄稿① ～温暖化対策の現場から～

パピルスカンパニー「カーボンオフセット付き 文具配送システム」について

株式会社 パピルスカンパニー

株式会社パピルスカンパニーは三井住友銀行を通じてニュージーランドの植林由来のAAU（注1）を購入し、東京大学様から株式会社パピルスカンパニーが受注した際、ある一定金額以上の場合、1kgのCO2排出権を日本政府へ無償譲渡する（注2）ことにより、配送時の排出量をオフセット（相殺）する取組を開始しました。

文具の配送時には軽トラックを使用するのが一般的です。一回の文具のオーダー時の配送に排出されるCO2量を、環境省が推奨する算定方法ガイドラインに従い、下記の通り推定しました。

- ① 軽トラックが1km走行する際のCO2排出量

$$\text{ガソリン燃焼時のCO2排出量 (kg-CO2/L)} \div \text{軽トラックの燃費 (km/L)}$$

$$\approx 2.3 \text{ kg-CO2/L (注3)} \div 8.2 \text{ km/L}$$

$$\approx 0.280 \text{ kg-CO2/km}$$
- ② 荷物1個発送する際のCO2排出量

$$1\text{kmあたりのCO2排出量 (kg-CO2/km)}$$

$$\times 1\text{回の発送による走行距離 (km/台)} \div \text{軽トラック1台あたりの個数 (個/台)}$$

$$\approx 0.280 \text{ kg-CO2/km} \times 160 \text{ km/台 (注4)} \div 50 \text{ 個/台 (注5)}$$

$$\approx 0.896 \text{ kg-CO2/個}$$

今回、荷物一つあたりで相殺する排出権は、お客様へのわかり易さを考慮し、0.896 kg-CO2よりも大きい「1 kg-CO2」を採用しました。

また、一定金額以下の発注には排出権を付けないようにしました。これは、仮にボールペン1本でもガソリンを使い配送することとなりますので、ユーザーである東京大学様にも、ある程度荷物をまとめて発注して頂くことにより、CO2排出量を抑える狙いです。

株式会社パピルスカンパニーは、今後とも環境に配慮した商品・サービスの提供を行っていき、日本の京都議定書上の排出削減目標である▲6%（1990年対比）に貢献したいと考えています。



注1：Assigned Amount Unit。京都議定書で決められた削減義務に基づいてあらかじめ付属書1国に割り当てられる排出枠（割当量単位）。

注2：日本政府への譲渡単位は1t（1,000 kg）ですので、当社で纏めた上で、1t単位の無償譲渡を行います。

注3：国土交通省／自動車交通局技術案全部環境課集計の平均燃費より算出されました。

注4：文具はデポに集約され配送するのですが、当社のこれまでの実績からトラック1台の配送距離を160km（デポまでの往復走行距離）と仮定しました。

注5：文具の1回の配送には、通常、平均50個以上の荷物を詰めています。